

ベッリーニのオペラ作品におけるコロラトゥーラ・パッセージの研究

— ソプラノ・アリアにみる感情表現とパッセージ —

A study of coloratura passages in the opera works of V.Bellini:

An analysis of expression of feelings and music passages in the soprano arias.

音楽文化研究科 音楽表現専攻 07-1014 林田 順子

本研究は、ベッリーニ (Vincenzo Bellini 1801-1835) のオペラ全 10 作品のうち、カバレッタが置かれたソプラノ・アリア全 12 曲を抽出し、コロラトゥーラ・パッセージと感情表現の関わりについて考察するものである。

第 1 章 1-1 ではまず、対象となる 12 曲のアリアが含まれるオペラ 8 作品のカバレッタを対象とし、「コロラトゥーラ・パッセージ」「パッセージ」「カデンツァ」「16 分音符 4 つ以上の旋律」の 4 種類について、それぞれの有無、位置、長さを調べてグラフにし、作品年代順の特徴を観察した。1-2 では、1-1 でコロラトゥーラ・パッセージが置かれていた 7 曲のアリアを抜き出し、コロラトゥーラ・パッセージの旋律線をグラフ化し、特徴を観察した。これらの研究で 1-1、1-2 の結果は共に、コロラトゥーラ・パッセージの種類やその数の増減は作曲年代による相違ではなく、個々の作品に特有の傾向を示していることが明らかとなった。

第 2 章 2-1 では、コロラトゥーラ・パッセージの置かれた単語を取り上げ、コロラトゥーラ・パッセージと主人公の感情表現の関連性について考察した。その結果、コロラトゥーラ・パッセージには主人公が最も訴えようとする心情を表す言葉が置かれ、そこが何度も反復されていることが明らかとなった。

2-2 では、コロラトゥーラ・パッセージの旋律線と歌詞を観察した。そこから、一つの心情を表すコロラトゥーラ・パッセージの旋律は、様々な旋律があり、統一性が見られないという結果を得た。

これらの研究により、次のような結果を導くことができた。

第 1 にベッリーニのコロラトゥーラ・パッセージの旋律線の変化は、複数の作品年代を超えて共通した傾向を持っているわけではなく、作品ごとに見られるものであることが明らかとなった。第 2 にコロラトゥーラ・パッセージは主人公の最も伝えたい言葉を音楽上の技巧や反復によって強調し、聴衆に主人公の心情を伝える役割を担っていた。

このように、ベッリーニはコロラトゥーラ・パッセージを、一つの表現方法として用いていたことがこの研究により明らかとなった。